

「地域の中核、世界の人材」 U N I V E R S I T Y O F Y A M A N A S H I

山梨大学広報[ヴァイン]

March 2011 vol.13

Vine

「地域密着型」 教員養成大学院の パイロットモデル

—スクールリーダーの育成を目指して—

[人物発掘]

御園生 拓教授

(工学部循環システム工学科)

[びっくあっぷレッスン]

Intensive-90

[ゼミ紹介]

医学部看護学科 基礎・臨床看護学講座

(成人看護学研究室)

サークル紹介/クローズアップびーふる/気になるお店



プロジェクト実習

プロジェクト会議

「地域密着型」 教員養成大学院の パイロットモデル

— スクールリーダーの育成を目指して —

山梨大学教職大学院専攻長

中村享史

山梨大学大学院教育学研究科教育実践創成専攻(教職大学院)は、地域の学校の課題に即した学校改善・授業改善の構想力・実践力を育成するとともに、教育に関する高度の実践的専門性と教育実践をリードする力の育成を目的としています。

本教職大学院は、平成22年4月に全国25番目の専門職大学院として開設されました。入学定員14名という全国最小・少数精鋭の規模で、専任教員11名という親密で手厚い指導体制です。今年度は、現職教員学生が9名、学部卒学生が6名の15名でスタートしています。修了時には、教職修士(専門職)の学位と専修免許が取得できます。

教職大学院の教育は、山梨県教育委員会・各市町村教育委員会の協力と山梨県内の15校の小中高等学校・特別支援学校の連携協力校との協働によって実現しています。

1. 学校改善・授業改善を重視したカリキュラム

授業は、教職大学院の基礎・根幹となる5領域の共通基礎科目があります。「教育課程の編成及び実施に関する領域」「教科等の実践的な指導法に関する領域」の授業実践改善に関わる領域、「生徒指導及び教育相談に関する領域」「学級経営及び学校経営に関する領域」

「学校教育と教員の在り方に関する領域」の学校実践運営改善に関わる領域の二つに大きく分けられています。

独自共通科目および発展科目は、それら二つの領域を基礎にしてその各論・発展科目として位置づけています。独自共通科目は、「科学的リテラシー教育革新論」「学校危機管理論」があります。また、発展科目には、「理数学力評価論」「理数学習教材開発論」「言語学習開発論」「子どものエンパワーメント論」「学校・教員評価論」「山梨の学校改革」があり、いずれも今日的な教育課題に対応する科目内容であると同時に山梨の地域と関わった科目内容です。(カリキュラム図参照)

これらの授業科目は、各教員の専門性に基づいた講義・演習で行われます。すべての授業は研究者教員と実務家教員のチーム・ティーチングで進められています。実践の理論化や理論の実践化を具体的な形で示し、議論を活発にしています。また、少人数のため、意見交換や議論の場が多くあります。教育実践を経験している現職教員学生の専門的な問いや学部卒学生の素朴な質問・意見などによって相互啓発を生み出しています。そして、すべての授業では、ポートフォリオによる自己評価を毎回行っています。学生の感想に対して、授業担当教員はコメントを書いて一対一の対話をしています。

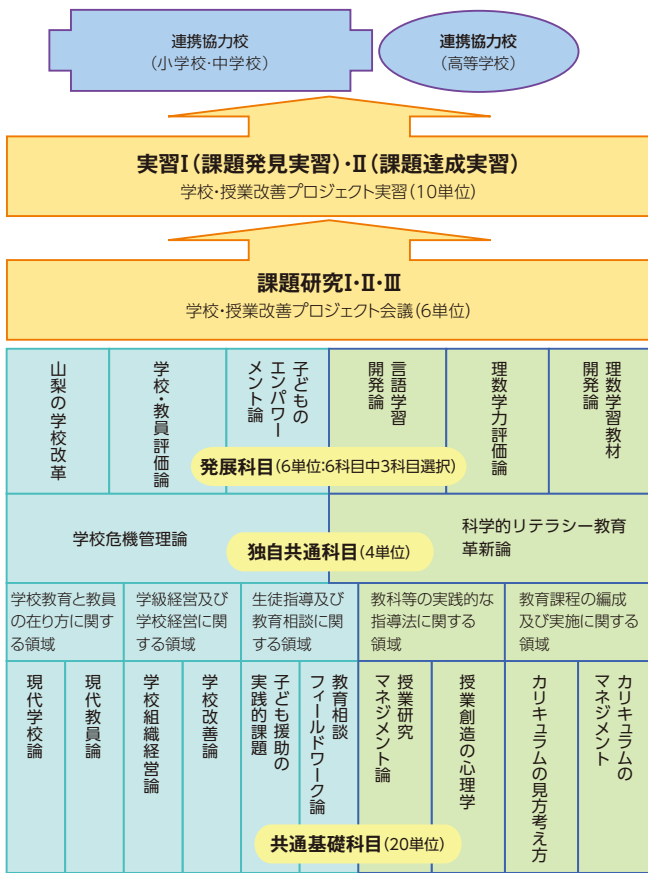


プロジェクト実習



プロジェクト会議

教育課程(カリキュラム)全図



2. 連携協力校のニーズに即した学校・授業改善プロジェクト(実習と課題研究)

学校・授業改善プロジェクト実習は、年間200時間以上の実習を山梨県内の連携協力校で行います。実習内容は、連携協力校が設定する教育・研究の内容に即したものとし、連携協力校が取り組んでいる課題や研究テーマに対して、教員免許状を取得している大学院生と大学教員が一体となってサポートするという考えです。例えば、授業改善に重点をおいた場合は、各教科内容の教材開発、カリキュラム開発、授業実践評価、授業研究、授業力の向上を目指した校内研究会の企画、TTでの個別指導などを行います。また、学校改善に重点をおいた場合は、学校運営に関する観察や実態調査、ニーズ調査、教育相談、生徒指導、学校・教員評価に関する実践研究などを行います。

実習形態は、それぞれの実習内容に即して変わってきます。例えば、毎週、曜日を決めて学校に出向き、授業実践、授業観察、TT指導、学校運営に関する観察などを行う実習があります。一方で、例えば、9月に集中して、ある教科の一単元の授業を行い、自分の行った授業の分析・考察を行う実習もあります。

連携協力校は、附属小学校、附属中学校、附属幼稚園、附属特別支援学校の他に、小学校は、甲府市立千塚小学校、中央市立田富北小学校、中央市立三村小学校、富士川町立増穂小学校の4校。中学校は、甲府市立北中学校、中央市立玉穂中学校、昭和町立押原中学校の3校。そして、高等学校は、山梨県立富士河口湖高等学校、山梨県立甲府工業高等学校、山梨県立塩山高等学校、山梨県立甲府第一高等学校の4校があります。

実習内容については、隔週金曜日に行われている学校・教育改善プロジェクト会議の中で課題研究として報告されます。全教員と全院生が一堂に会して、連携協力校での実習の観察・調査・実践の計画や結果のプレゼンテーションと討議を行っています。いわば、実習に向けての作戦会議の場と言えます。

今年度の院生の研究テーマでは、「授業評価を通じて授業の分析方法から授業改善方策を含めた考察」「ことば力とコミュニケーション能力を育む小学校外国語活動」「公立中高一貫校における数学カリキュラムの開発」「中高

連携の在り方について観点別評価を想定した授業の在り方」「教師の力量形成過程について～授業研究や校内研修を通して～」などがあります。

3. 開かれた教職大学院を目指して

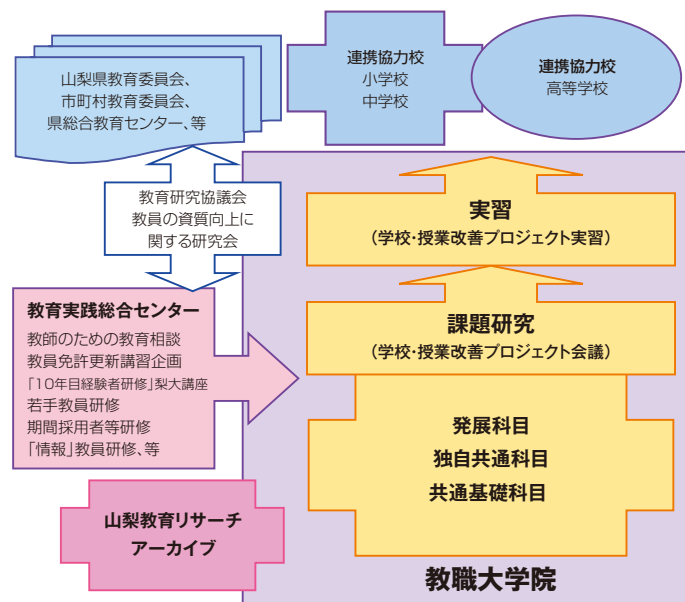
教職大学院の授業や実習は、常に改善をしていかなければなりません。そのために、授業評価においては、ポートフォリオを用いたり、教員同士の授業参観を行ったりして、FDの活動を継続的に行っています。また、実習や組織などについて外部の方との意見交流の場を設けています。組織運営では、山梨県教育委員会、各市町村教育委員会などから組織される「教育研究協議会」があります。ここでは、教員養成に関する検討・評価や教職大学院の実践・研究に関する評価を行っています。また、「教員の資質向上に関する委員会」「教職大学院実習連絡協議会」で教育内容や方法、指導体制の審議や実習内容、評価についての協議を行っています。

また、年2回「教育実践フォーラム」を開催しています。第一回は、「山梨大学教職大学院の活動実績と課題をめぐって」というテーマで10月16日に行いました。そこでは、院生が課題研究の内容について、教員が授業評価について発表し、参加者と意見交換を行いました。山梨県教育委員会からコメンテーターとして貴重な意見を頂きました。第二回は、「教員の資質向上と教職大学院の在り方」をテーマに2月19日に行われました。内容は、全院生が課題研究の発表と討議を午前中に行い、午後は、「質の高い学力を求めて-

学力と評価の新しい考え方-」と題して京都大学大学院の田中耕治教授の講演。テーマに即したシンポジウムを山梨県教育委員会、中央市教育長、連携協力校の校長、教職大学院教員が行いました。

このように教職大学院では、教育実践の実際を地域や教育界に開いています。そのことが、地域の学校の課題に即した教育実践とよりよい教員の育成に繋がると考えています。

地域協同にもとづく教職大学院～学校・授業改善プロジェクト～



人物 発掘

MISONO Taku

東京学芸大学大学院教育学研究科修士課程を修了し、旧ソ連モスクワ大で博士号を得て本学の教員に。

藻類生化学の研究を進めると同時に

「生き物をより深く理解することによってこの世界でよりよく生きることができると語る御園生 拓教授にお話を伺いました。」

御園生 拓教授

(工学部循環システム工学科)



料理を作るのが趣味だと 聞きましたが?

よく作るのはフランス料理やロシア料理などの洋食ですね。和食料理にはまだまだ手が出せませんが、フレンチフルコースのメニューを考えるのはいいストレス解消になります。料理は実験と同じですね。いつもどうしたらうまくいくかを考えながら作ります。最近凝っているダイコンのコンソメ煮、どのように扱えば形を崩さずにやわらかく仕立てられるか?などです。山梨は、シカやイノシシ、時にはクマといった野生動物の肉(ジビエ)などの食材が入手できるし、新鮮な野菜も豊富なので、凝った料理を作るのにも恵まれた環境にあります。いろいろと考えて作った料理がおいしく仕上がると、さらに新しい料理に挑戦したくなりますね。一方で、最近はカロリー取りすぎの現代生活にうんざりしていて、普段の晩ご飯はおかず程度しか食べないのですが。

スポーツの趣味というときスキーですね。まあ、どこでも思ったところで思ったように曲がって止まれるというレベルです。日本スキー連盟が毎年教程を変えるので、今年はどう変わるの

かな?など、野次馬根性で興味津々。最近ではテレマックスキーにも手を出して、これほどいたい思い通りに滑れるようになってきて楽しんでいます。

あとは、子供の頃から本が好きです。村上春樹の小説にはあちこちに私の大好きな図書館が出てきて、特に「世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド」の「一角獣の夢の図書館」にはすっかり困われています。

どんなお子さんでしたか?

生まれも育ちも東京です。小学校時代は少し太めで、どちらかというと内向的なごく普通の子でもでした。小学校低学年からピアノを習いはじめました。得意だった科目は国語と理科、算数は苦手でした。また、両親の影響でスキーを習いはじめ、その頃から毎年雪国に通っています。中学生になってピアノ

に加えてギターを弾くようになりました。こっちはクラシックじゃなくてそのころ流行のフォークです。あと、水泳(特に潜水)も子供の頃から得意でした。

高校時代はいかがでしたか?

高校は中高一貫教育の男子校でした。ガールフレンドがいて、喫茶店に入り浸って、という、これまたどこにでもいる普通の高校生でした。中学から始めたギターは、ひたすら技術を研いて、まあそれなりにな。

高校時代に影響を受けたのは国語の先生です。頭の回転の早いおおらかな方でした。このころも本を読みあさったおかげでずいぶん言葉を覚えました。言葉に対する感性は音感と連動しているのかもしれませんが、でも、高校3年生の時に文系から理系に鞍替えしたので苦労してしまいました。もういちど高校

一人ひとりの

自主性と

積極性に

期待したい。



【略歴】

- 1977年3月 東京学芸大学教育学部特別教科教員養成課程(理科教育・生物)卒業
- 1979年3月 東京学芸大学大学院教育学研究科修士課程理科教育専攻(生物学)修了
- 1985年3月 (旧)ソビエト連邦モスクワ国立大学大学院生物学研究科博士課程植物生理学専攻修了(Ph.D in Biology)
- 1986年10月 山梨大学講師(教育学部)
- 1988年6月 山梨大学助教授(教育学部)
- 1998年4月 山梨大学教授(工学部)

【専門分野】

藻類生化学、進化生物学、環境生物学、進化心理学

【研究テーマ】

大型藻の光と関わる各種生体物質の生理生化学的解析、微細藻類を用いた資源循環型畜産廃棄物処理システムの開発、バイオマス有効利用システムの開発、人間及び人間社会の進化的理解

わからなくて立ち往生したし、先ごろの国際学会で初めて行った中国大連の街では、一人で旧満州鉄道時代の路面電車に乗ったのまではよかったのだけれど、運賃の1元札がなくて車掌さんに中国語で怒鳴られまくった時にはとても困りました。とにかく言葉が通じないとどうしようもない、言葉(コミュニケーション)というものがとても大事だということを痛感しています。

【今の大学生に一言】

いまどきの学生さんは、妙に悪びれずあっけらかんとしていていいのですが、おどろくほど物を知りませんね。本を読んで勉強することが重要だと思います。皆さんの文章を見ると頭を抱えなくなる時があります。少なくとも、レポート作成時のコピー&ペーストはやめましょう。頭と手を自分で動かすことが重要です。皆さんの自主性と積極性に期待しています。就職については厳しい状況が続きますが、何も日本にとらわれなくてもいいのではないかと思います。海外に留学する学生が少なくなってきているとも聞きますが、日本を離れることによって世界観が広がるので、いろいろなチャンスを掴んで海外に出てみてほしいですね。

いずれにしろ、みなさんが有意義に大学生活を送れることを願っているのですが。

【これから受験する高校生に一言】

社会においてしっかりやっていくためには、長期間に渡っての能力の積み上げが重要です。能力を高めるにはひたすら勉強するかありません。自分で自分の頭を使えるようになります。自分の可能性を信じていろいろとチャレンジしてください。

生に戻れたら、とりあえず勉強したいですね。特に数学を...とも思うのだけれど、答えが一意に決まるというのにどうも馴染めなくて。

【大学生活はいかがでしたか?】

学部のころは、ポピュラーミュージックのサークルに入ってバンドを組み、学園祭はもちろん、大学外でのコンサートなどにも出ていました。今ではほとんど弾くこともなくなりましたが、今でも研究室にはフォークギター、家にはガットギターにピアノとシンセサイザーを置いています。学部卒論から藻類の生理生化学の世界に入ったのですが、研究材料の海藻を採るためもあってウェットスーツでダイビングも行っていました。大学院で今でも「先生」と呼べる先生に巡り会い、「人が生きるとはどういうことなのか」を考えさせられました。

【モスクワに留学されたそうですが?】

「ロシアは、帝政ロシア以来光合成研究が進んでいる」という話はあっても近くに実態を知っている人がいなかったの、これは見に行かなければ!というのが大きかったですね。モスクワ大学大学院では、日本や西欧とロシアの研究の発想の違いを知りました。世界中から集まった学生達と共に大学生活を送り、授業もロシア語で受けていたので、ロシア語がしゃべれるようになったのもよかったと思います。今でも国際学会などではロシア語圏からの参加者とロシア語で話します。山梨大にもロシア語圏からの留学生が在籍していますが、となりの研究室のウクライナからの留学生とは、日常会話はロシア語、研究についてはロシア語・英語・日本語をミックスしています。

【大学の教員になったきっかけは?】

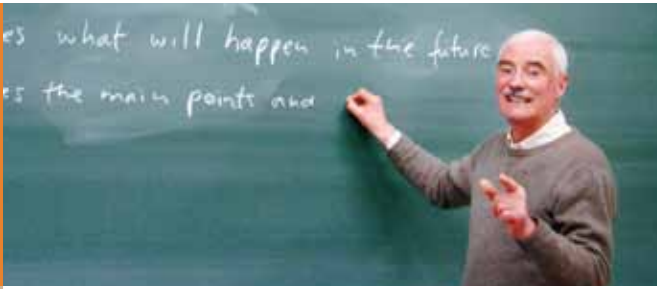
身近に大学関係者がいて、子供の頃は大学教員とは昼間も家にいる楽な商売だと思っていましたが、実のところは大変でした。研究に加えて、学生さん達を教えるのはそれなりに面白いし、まあなんとかやっていますが、あこがれの職業は(今でも)図書館司書だったりします。

【最近一番困ったことは?】

これは言葉ですね。モスクワから参加した初めての国際学会では、質問者の英語が



MISONOU Taku



[担当教員]
大学教育研究開発センター
Gerard Anthony Allen 准教授

[授業目標及び概要]

Intensive-90は週3回英語を母国語とする先生と英語を使って授業を行います。この授業を通して学生はコミュニケーション能力の向上を図ります。また様々な教材を使ってリーディング、ライティングはもちろんスピーキング、リスニング能力をバランスよく身につけることができます。

Intensive-90

[授業内容]

この授業の特徴は何と言ってもネイティブの先生とコミュニケーションがとれるということです。また、先生たちの国の文化や習慣も知ることができることも大きな特徴です。ただテキストに沿って授業を行うだけでなく自分の好きな本や映画についてや将来の夢、日常の出来事などを英語でプレゼンテーションします。このスピーキング練習を繰り返すことによってスピーキング能力が大きく向上するほか、日本人は比較的人前で発表したり、意見を言うのが苦手な人が多いのでこの練習は恥ずかしさを克服するにはうってつけだと思います。

また、友達同士でも意見交換をするので普段は話さないことも聞くことができます。さらに、教科書という枠にとらわれずにパソコンを使うこともあり、YouTubeを使って海外映画のワンシーンを見て台詞を聞き、シチュエーションの理解力を図るレッスンもあります。このレッスンでは他にもチャット機能を使い、シチュエーションが理解できたかどうかや、先生や友達とあるトピックについて会話したりチャットしたり互いにどのように感じたのかを共有します。

先生は何人かいますが皆非常に優しく、丁寧に教えてくれるので英語でうまく表現するのに自信のない人も丁寧に教えてくれるので向上心さえあれば英語力は関係ありません。授業は自分から積極的に発言していけるので自分の意見を言うことに対する抵抗感も減らせますし、近年海外留学する日本人学生の数が減少してきているのでこの授業をきっかけに海外の文化を知り海外に行ってみたいと思うかもしれません。Intensive-90はこのように今まで気がつかなかった自分の新しい可能性が発見できる非常に特徴のある授業だと言えます。





臨床で役立つ看護学の「技・美・快」を探究しています…

看護学科は、平成7年4月に山梨医科大学(現、山梨大学)医学部に新設されて約16年、成人看護学教員は成人内科・外科看護学(慢性期・急性期看護学)の講義・演習・実習等、多くの科目を担当してきました。開設当時は臨床看護学講座の一つの領域でしたが、平成22年4月から基礎・臨床看護学講座として新たな領域に生まれ変わり、基礎看護学から臨床看護学へのスムーズな教育の展開と、基礎的看護技術力から臨床的看護技術力強化のために、演習や実習指導に力を注いでいます。その間、平成11年から大学院修士課程(看護学)、平成15年から博士課程(ヒューマンヘルスケア学)が開設され、現在まで臨床看護学専攻の多くの修了生を輩出しています。

学部の講義は、臨床の新しい知見を取り入れて、成人患者が抱える問題を身体面・精神面・社会面から包括的に捉え、正確に



判断し、正確に対応できるように学生の実践力の強化に努めています。何よりも、卒業後

臨床看護師として活躍できるよう、学生一人一人の能力と個性を重視し、主体的に学習・実習する方法をとりいています。2年次からの講義は、症例別事例による自己学習とグループ討議、3年次は救急処置・身体機能訓練・治療食調理実習など、学生は身をもって患者と看護師役を演じたり、臨床

看護技術のシナリオ・演出・DVD教材作成を担当し、その教材を用いて同級生や下級生に講義を行う体験学習を行っています。そんな時の学生は活き活きしています。

大学院生(修士課程、博士課程)は、在職中の社会人が多いため、夜間講義・ゼミが中心となっています。研究テーマは、患者のQOLの向上・苦痛の緩和・生活習慣の獲得など患者を対象としたもの、看護師のコミュニケーション能力・倫理的配慮・指導力など看護師を対象としたものに、大別されます。いずれも、臨床看護の質の向上を目指したものです。現在、成人看護学教員は、臨床看護実践力を向上させる“技”“美”“快”の探究をテーマに、日々教育・研究に取り組んでいます。



大学院生歓迎会

アメリカンフットボール部

こんにちは! 山梨大学アメリカンフットボール部です。
突然ですが、アメフト部にはそれぞれ大学ごとにチーム名があることを知っていますか? 私たちのチームは『ワイバーズ』とい
います。現在私たちは部員20名ほどで、毎週月・木・日曜日の
週3回、甲府キャンパスのグラウンドで練習をしています。

よく「痛そう」という意見がありますが… そんなことはありません!
防具があるのでぜんぜん痛くないんです。また、「恐そう」と
いう意見もありますが… そんなこともありません! アメフトは
すっごく面白いスポーツで、楽しさが恐さを凌駕しています。

そんなアメフトは、大学からでも始められるスポーツで、部員全
員が大学からのスタートです。それにもかかわらず、私たちワイ
バーズはリーグ優勝や所属リーグにおけるオールスター選出
などしており、初心者でも十分活躍できるフィールドがアメフト
部にはあります!

優勝などしているチームに入部するのは運動神経が無いから
無理だ…と思う人もいるかもしれませんが、そんな事はありません!
例えば、背が低いから…とか、太っているから…とか、自分か
らスポーツを敬遠している人はいませんか?

**アメフト部には
10種類以上ものポジションがあり、
様々な能力の人が活躍できるのです。
あなたもワイバーズの一員になって
一緒にアメフトやりましょう!**



WYVERNS

また、私たちの部は部員の仲がとても良いんです! 運動部とい
うと、縦社会のような気がするかもしれませんがそんな事ありま
せん。最低限の上下関係はありますが、先輩と後輩はもちろん、
選手とマネージャーも大変仲が良く日々楽しく活動しています。
もちろん練習だけではなく、みんなでバーベキューをしたり、旅行
に行ったりなどイベント事もたくさんあります。せっかくの大学生
活楽しまないと損です!! 一緒に思い出を作りましょう。興味があ
る方はいつでもグラウンドに来てください! お待ちしています♪



こんにちは、山梨大学剣道部です。私たちは現在、20人前後の部員で活動しています。練習は週に3回、1時間から1時間半を目安に稽古をしています。

皆さんは剣道というどのような印象をお持ちでしょうか。きつい? 厳しい? 汗臭い? 確かにそんなところも否定しきれませんが、私たちは決して力任せの稽古ではなく、「生涯剣道」の名のもとに、生涯を通じて長く続けられるような美しい剣道を目指し、あくまで『基本に忠実』をモットーに練習しています。また、剣道は「礼に始まり礼に終わる」と表現されるように、何よりも礼儀を、そして仲間を重視し思いやれるような、そんな部を目指しています。

部の雰囲気はとても和気あいあいとしています。部員間のつながりも厚く、部活が終わると毎回みんなで誘い合い、夕食に行ったり、時には誰かの家にあつまって焼き肉パーティーをやったり、先輩に美味しい麻婆豆腐を振る舞ってもらったりと、プライベートでの交流も大事にしています。

しかしその一方、剣を交えればみな真剣で、各種大会でも好成績を残してきました。一年のうちで最も大きな大会である東医体(東日本医科大学学生総合体育大会)では団体でベスト8、個人戦では準優勝を収めたことをはじめとして、数々の好成績は私たち山梨大学としての誇りでもあります。また、学業にも皆熱



心で、仲間同士で助け合い、3学年にわたり主席の成績を残しています。「文武両道」が私たちの目指すところでもあるからです。また、様々な交流試合を通して、他大学との交流も盛んです。信州大学や筑波大学、慶応大学をはじめとした多くの大学の学生と汗を流し、楽しい時間を過ごすことは大学生

活における輝かしい思い出でもあります。

今後も、私たちとしての歩調を乱さず、また、地道な心を忘れず、そして更に多くの仲間と活動してゆけることを願って、充実した日々を過ごしていきたいです。



汗握る竹刀の様にまっすぐに、
曲がらず回らずただ一本に、
私たちはこれから進んでいきます。
いつでも誰でも私たちが歓迎です。
一緒に剣道をしてみませんか?



〈サークル紹介〉

剣道部

医学部



close-up people



楽しむ時は思いっきり楽しむ!!

◎工学部応用化学科3年生 白倉麻依さん

まず初めに自己紹介をお願いします。

白倉麻依、2月14日生まれAB型です。みんなからは「まいまい」と呼ばれることが多いです。出身は茨城県です。性格はマイペースだと思います。思ったことは行動に移すタイプで、口にも顔にも出やすいですね(笑)。これが短所だとしたら、長所は嫌なことがあっても、あまり引きずらず切り替えが早いところですかね。

趣味は音楽を聴くことです。昔はスピッツをよく聴いていましたが、今はインディーズの曲を聴くことが多いです。最近では小説を読むことも多いです。好きな小説は東野圭吾さんの「天空の蜂」。他には村上春樹さんも読みます。

大学や山梨での生活はどうですか?

勉強はちょっと…

だけど学内に知り合いも多いので、けっこう楽しいです。ただ学祭での出費が多いのはつらいですけど。

一人暮らしをしているのでそこは大変です。料理するのは好きなんですけど片づけや、洗濯なんかは苦手です。できれば誰かやってくれと嬉しいんですけど…(笑)。

学校が休みの日は何をしていますか?

昼間はバンドの練習をすることが多いですね。夕方からはだいたいバイトです。パ

イトがない時は友達と遊んだりします。この辺で遊ぶところないですね、だから基本的に誰かの家に集まって遊びます。お酒を飲んだりもします。



バンドについて聞かせてください。

軽音に入っていて、そこで『Luft』というバンドを組んでいます。

メンバーは3人で私はベース・ボーカルを担当しています。ちなみに読み方はルフトで、ドイツ語で空気などという意味がありますが、響きがカッコよかったのでつけました。バンドを組もうと思ったきっかけですか?中学生の時に親からクリスマスプレゼントに

ギターを貰ったのが最初ですかね。その時はあまりうまく弾けなかったんですけど、音楽の授業でギターを弾く機会があってそのときに引き込まれました。その後バンドを組んでみたいと思いました

た。大学に入学して、軽音を見学に行ったときにバンドを組んでそのまま活動を続けています。

先日はラジオに出演させていただきました。

ラジオに出演されたんですね。それについて教えてください。

はい。FM富士の『FAT DE SORRY』という30分番組の内の7分程度ですがお話

させていただきました。スタジオが想像通りでした。

収録の雰囲気は少し緊張しましたが、一緒に出演した友人のほうが緊張していたようで、オンエアでは声が震えていました。

他の楽器を演奏することはありますか?

昔はギターとピアノをやっていました。ベースはまだ練習中なので早くうまくなりたいですね。他にやりたいと思う楽器は特にはないです。ただ、やりたいやりにくくないは関係なしに、身の回りにある物を楽器にして演奏することには少し興味があります。デッキブラシやドラム缶といったものを楽器として演奏するのはすごいと思います。

最後に後輩に向けて一言をお願いします。

そうですね…楽しむ時は思いっきり楽しむ!!やりたいと思ったことはやるべきだと思います。バンドもそうですが、気になることや、興味があることには積極的に参加したり、行動に移すようにしています。なので皆さんも悔いのない大学生活を送ってくださいね。



「ものづくり工房」 開所式を開催

平成22年10月12日(火)、甲府東キャンパスにおいて「ものづくり工房」の開所式を挙行了しました。この「ものづくり工房」は、工学部附属ものづくり教育実践センターが実施するプロジェクト(学科横断的PBLものづくり教育プログラムの開発)に対し予算措置されたもので、学生が学科間の枠をこえておよ



左から宮田センター長、星理事、豊木工学部長

そ8つのプロジェクトチームを編成し、問題解決型プロジェクトを遂行することにより、実社会でプロジェクトリーダーとして活躍できる人材を育成する教育プログラムです。平成23年4月から本格実施、そして5年後には評価と保証を行うという5年間に渡るプログラムです。

平成23年度学年暦 (年間予定表)



事 項	期 日 等
前期開始	4月1日(金)
入学式	4月6日(水)
ガイダンス等	4月1日(金)~4月11日(月)
前期授業開始	4月12日(火)
前期授業終了	8月1日(月)
夏季休業	8月2日(火)~9月21日(水)
秋季卒業式・修了式	9月29日(木)
前期終了	9月30日(金)
後期開始	10月1日(土)
開学記念日	10月1日(土)
秋季入学式(大学院)	10月3日(月)

事 項	期 日 等
後期授業開始	10月3日(月)
大学祭(医学部キャンパス)	10月28日(金)~10月30日(日)
大学祭(甲府キャンパス)	11月4日(金)~11月6日(日)
冬季休業	12月23日(金)~1月4日(水)
特別開講日	1月31日(火) 金曜日の振替日
特別開講日	2月2日(木) 月曜日の振替日
後期授業終了	2月3日(金)
春季休業	2月4日(土)~3月31日(土) 各学部で定める
卒業式・修了式	3月22日(木) 予定
後期終了	3月31日(土)

(注)1: 特別開講日(振替日)とは、授業回数不足している曜日について、当該不足曜日の授業を振替えて行うものである。
2: 1月13日(金)は、大学入試センター試験準備のため休講とする。

編集後記

「Vine」第13号をお届けします。山梨大学は地方の小さな国立大学ですが、少人数教育による手厚くきめ細かな指導体制や地域に密着した教育・研究など、魅力がギュッとつまんだコンパクトな大学だと感じています。そして東京の隣にありながら自然環境にも恵まれています。この春、約830名の学生が山梨大学を巣立ちますが、本学で学んだことを誇りに「地域の中核、世界の人材」として活躍してくれることを願ってやみません。

さて、2月下旬に九州のある国立大学を訪ねました。最寄り駅のホームにその大学の広報誌が置いてありました。いつでもだれでも手に取って読めるわけです。「Vine」は現在のスタイルになって5年目になります。これからも内容や発信手段を見直しながら、山梨大学のありのままの姿や進もうとしている方向をより多くの方に伝えていきたいと考えています。みなさまのご意見・ご指導をよろしくお願いたします。1年間ありがとうございました。

広報誌専門委員会委員長 田中 勝



表紙作品の紹介
タイトル
「渚」

伊藤奈津美
教育人間科学部
美術教育専修3年

山梨大学広報「ヴァイン」 March 2011 vol.13

発行者:山梨大学広報誌専門委員会

[本誌に関するご意見・お問い合わせ先]

山梨大学総務部総務・広報課広報グループ

TEL:055-220-8006 FAX:055-220-8024

E-Mail:koho@yamanashi.ac.jp

山梨大学ホームページ

<http://www.yamanashi.ac.jp/>



山梨大学
UNIVERSITY OF YAMANASHI



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。